



学校だより

令和5年5月号
発行 和田小学校
TEL 72-0138

コロナ禍から何を学んだか

「いつかは明ける」と願いながら過ごした3年間のトンネル。ようやく出口が見え始めたように思えます。3密回避、オンライン授業、黙食、マスク必着、日々の検温・消毒作業等々、様々な制約の中で過ごした学校生活は、子どもたちの目にどのように映り、成長にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

経済活動も次第に活発となるにつれ、テレワーク推奨、外出制限、地域行事の中止等、社会がこれまで停滞を余儀なくされていたように映ります。

和田公民館の挑戦から

そのような中、ピンチをチャンスに変えたのが和田公民館。緊急事態宣言が出されて間もない頃、全国に先駆けオンラインによる出前講座やSNS発信を開始。高齢者福祉施設に健康体操を届け、デジタル世代である若者や他の公民館へ取組を発信するなど、公民館へ行きたくても足を運べない人、普段からあまり関心が薄く縁がなかった世代や他地域とつながることに成功。全国の社会教育施設で利用者の減少や休館が相次ぐ中、地域住民をつなぐ砦である全国の公民館に踏み出す勇気と希望を与えました。

このコロナに負けない先駆的かつ地道な取組が高く評価され、全国で5館しか選出されない優良公民館賞の荣誉に輝きました。

村宮館長は当時のことを「職員3人の小さな公民館。予算もなく、ネットも事務所にしかなく、職員もデジタルスキルがほとんどなかった。休館も考えたが、地

域の元気を取り戻すため何かできることがないか、その思いだけで諦めずにみんなまで必死に考えた。最初は悩んだが次第に楽しくなった。でもまだ道半ば。」と謙遜気味に語られていました。

未来社会に求められる力とは

コロナ感染症に限らず、少子高齢化、人口減少による人手不足等々、課題先進国である日本の未来社会を担うのは紛れもなく子どもたちです。困難に直面しても仲間と課題を解決しながら生き抜く力、ともに心豊かで幸せに暮らす地域を創り上げる集団力の育成は急務であり、もはや自分一人の幸せを願うだけでは実現も持続もしないことは明白です。

どのような子どもに育てたいか

その基盤づくりを担う学校では、自分を大事に思い・仲間を大切に子ども、ともに困難を乗り越え挑戦するたくましい子ども、ふるさとを愛する子どもを育成すること等をめざし、スクールプランを作成しました。詳しくは学校ホームページをご覧ください。

どのように育てるのか

学習活動（授業）は、めあてや学習課題を児童が共有しながら情報を集め、自分の考えをもって対話する中で、主体的・自律的に判断し行動ができるよう計画をしていきます。

学ぶことが楽しくなるよう、また一人ひとりのよさや可能性を引き出すことをめざし、保護者や地域の方々のお借りしながら学校づくりを行っていきたくと考えています。

植物の栽培を通して

若葉も次第に色濃く映え、恵みの梅雨を迎えようとしています。各学級で種まきや田植えをしました。まき終えた1年生が「私のアサガオさん、早く芽を出してね。」と祈るように水をあげている姿がほほえましく印象的でした。

これから、各学級で栽培・観察を続けていきます。学年に応じて、植物の体のつくりや生長、光合成、食物連鎖、自然界で果たす役割や食糧問題等について、理科や家庭科、社会科など様々な教科に関連づけ学んでいきます。

幸いにも和田は田畑や海といった自然に恵まれ、子どもたちは身近に暮らす地域の方々から直接教わるすることができます。本当にありがたいです。

〈 育てる花や作物 〉

- 1年 アサガオ
- 2年 サツマイモ、ミニトマト
- 3年 だいず、ホウセンカ、ヒマワリ
- 4年 ハチマ
- 5年 イネ
- 6年 ジャガイモ
- なかよし ミニトマト、オクラ



1年 生活科「アサガオのたねまき」

まく場所と深さは？ それはどうして？



2年 生活科「さつまいもの苗植え」

立てて植えないのはどうして？



5年 理科「タネの発芽」

タネから先に出るのは、「芽」？「根」？ それは、なぜ？

6月の主な行事予定

- 3日（土）PTA奉仕作業
- 9日（金）校内体育大会準備（午後）
- 10日（土）校内体育大会
- 11日（日）（体育大会予備日）
- 12日（月）振替休業
- 14日（水）避難訓練
- 26日（月）プール学習開始
- 30日（金）校内研究会のため
15:15 集団下校

学校ホームページ(HP)のお知らせ

下記のQRコードから学校の様子をご覧いただけます。ぜひご覧ください。



ホームページ



学校ブログ